



おわりはんしちだいはんしゅ

尾張藩七代藩主

とくがわむねはる

徳川宗春を知っていますか？

目次

- p. 3 宗春っていつの時代の人？
- p. 5 宗春の家族は？
- p. 9 宗春を尾張藩主にしたのは誰ですか？
- p. 11 宗春は藩主として何をしましたのですか？
- p. 14 宗春は、派手な衣装を着て、花街で遊んだり、お金を湯水のごとく使ったと評判が良くないのですが？
- p. 18 宗春は、藩主の後半に、経済政策に失敗し、藩士の遊興に手がつけられなくなったために名古屋城下の花街を縮小し、藩士に遊興禁止の通達を出したそうですが宗春の方針が間違っていたからではないでしょうか？
- p. 21 謹慎処分を受けたのは遊びすぎたからではないのですか？
- p. 25 蟄居謹慎後の宗春は、どんな生活をしたのですか？
- p. 28 宗春の影響は、彼の謹慎後どうなったのでしょうか？
- p. 31 宗春公の主な略歴



おわりはんしちだいはんしゆとくがわむねはるこゝろ なごや きやう えど おおさか なら とし だいまよう
尾張藩七代藩主徳川宗春公。名古屋を京・江戸・大阪に並ぶ都市にした大名です。
いま けんきゆう とき えど ばくふはちだいしようぐんとくがわよしむねこゝろ たいりつ ちつきよきんしん
今までの研究では、時の江戸幕府八代将軍徳川吉宗公と対立して、蟄居謹慎をさせら
れたと言われてきました。吉宗公以降の幕閣たちは、政權にとつて都合の良い吉宗公を
えいゆう たてまつ そのためには、せつきよけいせいさいく わるもの
英雄として奉らねばならず、そのためには、積極経済政策をとつた宗春公は悪者で
なければならなかつたのです。宗春公は、質素儉約を行つてきた吉宗公の対立者とし
よしむねこゝろ ひ やく むねはるこゝろ しつそけんやく おこな よしむねこゝろ たいりつしや
て、吉宗公の引き立て役にさせられたのです。そのために宗春公に関する記録がほとん
ど消され、または改竄され、派手好きで、女色に溺れ、藩の財政悪化を招いたと、ほ
けんきゆうしや しん げんじよう
とんどの研究者までもが信じてしまつてゐるのが現状です。
むねはるこゝろ じんぶつぞう はくし もとど ちやうていもんたい けいさいもんたい み
ところが、宗春公の人物像を白紙に戻し、朝廷問題や経済問題を見つめてみますと、
つうせつ せいはんたい じつ りつぱ はんしゆ わ
通説とは正反対で、実に立派な藩主であつたことが分かつてきました。まさに英雄とい
ことば に あ ゆいいつ だいまよう ひと
う言葉が似合う唯一の大名であつたと言えるほどの人でした。
とくがわむねはるこゝろ じんぶつ
徳川宗春公とは、どんな人物だつたのでしようか？

※以下、敬称は省略します。

質問 宗春っていつの時代の人ですか？

答え 江戸時代中期です。

元禄九(1698)年の十月二十八日(以下年月は全て旧暦)に生まれました。

朝廷は東山天皇、江戸幕府五代将軍徳川綱吉の時、

元禄文化が栄えていました。

元禄十三年に、水戸黄門として有名な徳川光圀が亡くなり

元禄十五年には赤穂浪士の討ち入り(忠臣蔵)がありました。



尾張藩藩主になったのは享保十五(1730)年の十一月

宗春数え三十五歳(満三十四歳)、

なかみかどてんのう はちだいしやうぐんとかわよしむね あほ ぼうしやうぐん ゆうめい
中御門天皇、八代将軍徳川吉宗(暴れん坊将軍で有名?)の時、
きやうほう かいかく しつそけんやく じだい
享保の改革で質素儉約をしていた時代です。

いんきよ げんぶんよ
● 隠居したのが元文四(1739)年一月です。

むねはるかぞえ さい
宗春(数え四十四歳(満四十二歳))

さくらまちてんのう しやうぐんよしむね
桜町天皇、将軍吉宗の時

おおおかえちぜんのかみただすけ みなみまちぶぎやう じしやぶぎやう
大岡越前守忠相が南町奉行から寺社奉行になった二年半後
ちやうてい ごじゆうねん おおにえのまつり おこ よくとし
朝廷で五十年ぶり大嘗祭が行なわれた翌年です。

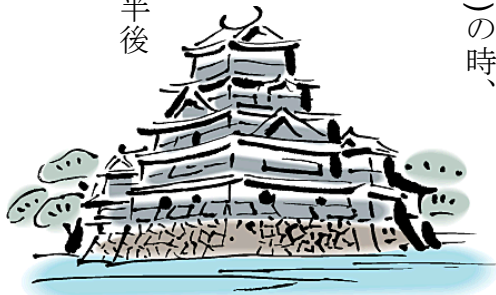
な
● 亡くなったのは、明和元(1764)年十月八日、

かぞえ さい まん さい
数えで六十九歳(満六十七歳)でした。

ごさくらまちてんのう じゆうだいしやうぐんとかわいえはる おわりはんくだいはんしむねちか(むねよし)
後桜町天皇、十代将軍徳川家治、尾張藩九代藩主宗睦

たぬま おきつぐ じだい い しょうぎやう じゆうし
田沼(意次)時代と言われ、商業が重視されていました。

たぬま むねはる せいさく こと せいさく もち
田沼は宗春の政策とは異なりますが、それと似た政策を用いました。



質問 宗春の家族は？

むねはる かぞく

答え

おわりさんだいはんしゆとくがわつななり ちち そくしつうめづ はは う
尾張三代藩主徳川綱誠を父に、側室梅津を母に生まれました。
子供は八人いました。

むねはる つななり にじゆうなん
・宗春は綱誠の二十男(三十四子)で、梅津の次男でした。



つななり ちち むねはる そふ おわり はんしゆとくがわみつとも ずいりゆういん げんせいこう
・綱誠の父(宗春の祖父)は、尾張二代藩主徳川光友(瑞龍院・源正公)で
はむねはる そぼ さんだいしゆうぐんいえみつ ちようじよちよひめ りようせんいん
母(宗春の祖母)は、三代将軍家光の長女千代姫(靈仙院)。
しょうぐんけ けつえん ふか
将軍家との血縁も深いものでありました。

たいへんすく ひと な のち たいしんいん せいこう よ
大変優れた人だったそうです。亡くなった後は泰心院、誠公と呼ばれました。

・梅津は浪人の三浦太治兵衛嘉重の長女です。

綱誠が亡くなった後は宣揚院と名乗りました。

嘉重は、宗春が生まれる前に、

尾張藩附家老 成瀬隼人正親の家臣(二百石)となつています。

梅津は大変信仰深い方で、寺社への寄付をいくつも行っていきます。

宗春にはこどもは八人いましたが、全員宗春よりも先に亡くなりました。

・長女の富(理泡院) 母は海津(栄昌院)

享保九(1724)年四月九日〜享保十八(1733)年六月十七日

・次女の補誦(凜霜院) 母は民部(永光院)

享保十一(1726)年正月四日〜享保二十(1735)年十月八日



・三女の八千（曄徳院）
母は海津（栄昌院）

享保十一（1726）年十二月八日〜享保十六（1731）年五月十七日

・四女の頼君（靈樹院）
於須亭）
母は伊予

享保十三（1728）年正月二十日〜宝暦十（1760）年十月十日

宗春のこどもの中で、ただひとり成人しています。

宗春が謹慎した後に、親類の公家の九条植基と婚約し、

名古屋の祖母宣揚院（宗春の母の梅津）の元でしばらく生活をしました。

植基が急逝したため、関白近衛内前の妻となりました。

従三位徳川勝子と名乗りました。

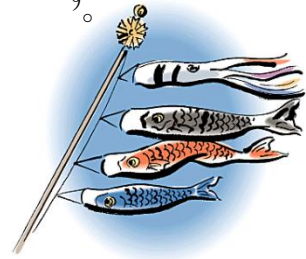
・長男嫡子の万五郎（慧運院・国丸）
母は海津（栄昌院）

享保十四（1729）年十二月十七日〜享保二十（1735）年九月九日

宗春は、万五郎の端午の節句の祝で、



え ぢちようみん いちがやおもてやしき まね
 江戸町民を市ヶ谷表屋敷に招き入れ
 おわりはん そとくがわよしなお かれ ちちとくがわいえやす
 尾張藩祖徳川義直が彼の父徳川家康から拝領した
 のぼりばた いちがやおもてやしき かか
 幟旗を市ヶ谷表屋敷に掲げました。
 え ぢちようみん とも よろこ わか あ
 江戸町民と共に慶びを分かち合おうとしたエピソードです。



ごじよ やお しゅうぞういん はは みんな えいこういん
 ・五女の八百（秋蔵院）母は民部（永光院）
 きようほう

享保十五(1730)年正月十三日～享保十六(1731)年七月一二日

ろくじよ いづ しやうにいん はは いよ
 ・六女の以津（性如院）母は伊予
 きようほう

享保十五(1730)年八月二十一日～享保十六(1731)年九月四日

じなんちやくなん たつちよ りゆうちよ えんとくいん はは みんな えいこういん
 ・次男嫡男の龍千代（龍千世・円徳院）母は民部（永光院）
 げんがん

元文二(1737)年十一月十二日～元文二(1737)年十二月二十四日

質問 質問 宗春を尾張藩藩主にしたのは誰ですか？

答え 江戸幕府八代將軍徳川吉宗です。

えど ばくふ はちだいしようぐんとくがわよしむね

・宗春の兄弟で成人した男子は宗春を含め五人だけでした。

・徳川吉通 四代藩主

・徳川継友 六代藩主 兄吉通の死後、その息子の五郎太も死に、後継に

・松平義孝 尾張藩御連枝（分家）高須藩藩主

・松平通温 兄継友が將軍後継になれなかつたことに怒り乱れ、

名古屋に謹慎させられ病死。

尾張藩は後継者が不在場合は、

まず分家筆頭の高須藩主が尾張藩の後継に入るはずなのです

吉宗により、宗春が高須藩主の兄義孝を超えて尾張七代藩主になりました。





はちだいしょうぐんよしむね
八代將軍吉宗は、部屋住みの宗春に官位(主計頭)を授けたり、
だいみょうかく
大名格にして、儀式に参加させたり
おわりはんぶんけ
廃絶していた尾張藩分家の陸奥梁川藩三万石の大名にし
くにもちだいまようじゅうまんごくいじょうなみ
国持大名(十万石以上)並の待遇(従四位下侍従)を与えました。
ぶんけひつとどう
そして分家筆頭の兄義孝を超えさせて
めいもく
六代藩主継友の遺言という名目で宗春を尾張藩主にしました。
おわりはんしゅ
藩主になる前の宗春は、大切な儀式に参加したり、鷹狩の獲物を拝領したり
たかがり
しんばんふだいしろうぐん
親藩譜代(將軍の親戚や先祖代々の家臣)の中でも、吉宗に最も近い一人でした。
しんせき
せんぞだいだい
なか
よしむね
もつと
ちか
ひとり
はいりよう
えもの

質問

むねはる はんしゅく なに
宗春は藩主として何をしたのでですか？

答え

けんやく きんしゆく ほうりつぜったいしゆく ばくふ ほうしん はん
儉約・緊縮・法律絶対主義の幕府の方針に反して

きせいかんわ まつ み はな
規制緩和をし、祭りを増やして華やかなものとし

はなまち しばい きよか
花街・芝居などを許可して

ぶんか しょうぎやう しょくにん とくさんぶつ そだ
文化と商業・職人・特産物を育て

みずか
自らファクションリーダーとなりました。

ほうりつ すく おお あい ひろ じいせい せいじ めん
法律の少ない、大きな愛と広い心の政治を目指しました。

はんしゅく ちやくく
藩主になった直後に、マニフェストであり家訓でもある

おんち せいよう しゅつしゅつばん
『温知政要』を執筆出版しています。



• 当時の江戸幕府は財政再建が最優先で、倹約・緊縮を実施していました。

夏の間は江戸城で足袋を履くことを禁じ

將軍自身が食事を減らし薄着をするほどの倹約でした。

また日本各地での芝居・祭・花街等を縮小させていました。

• 宗春は派手な衣装で尾張に戻り、

その後も自らファッションリーダーとして尾張藩内を巡視します。

幕府の政策に反し、

規制を緩和し、祭を賑やかにし、芝居・勧進相撲・花街などを許可します。

これは、藩の役人主導の公共事業による積極財政ではなく

規制を緩和し、庶民の活力を活用するという積極経済政策でした。

何よりも庶民のよろこびを大切にしていたのです。

全国的に飢饉となり、餓死者が出たり、打ち壊しや一揆が続いていた当時に、



仁



おわりはんない げんざい あいぢ ぎふ ながの いちぶ
尾張藩内（現在の愛知・岐阜・長野の一部）では、
がししや しいけい ぶんか ほってん
餓死者はなく、死刑にされる者もなく、文化が発展し、
しょうひしやけいざい かくりつ せんぜつこ はんえい み
消費者経済が確立され、空前絶後の繁栄を見せます。



おんち せいよう
『温知政要』は、政治は大きな愛(慈)と広い心(忍)で行うべきものであるとし
ほうりつばんのうしゆぎ せいじ ひてい
法律万能主義の政治を否定しています。

げんたいしやかい つう たいせつ
これは現代社会にも通じる大切な考え方です。
きせい かんわ すいしん いのち とうと
また規制緩和を推進し、命を尊び、
ひとり じんげん じんりかん こうよう めざし
一人ひとりの人間としての倫理観の高揚を目指した内容が記されています。



質問
むねはる はで いしやう き はなまち あそ
宗春は、派手な衣装を着て、花街で遊んだり、
かね ゆみず つか ひやうばん よ
お金を湯水のごとく使ったと評判が良くないのですが？

答え
おおまちが
これは大間違いです。

むねはる とうじ ひやうばん よ
宗春の当時の評判はとても良いものでした。

とうじ はなまち ぶんか
・当時の花街は、文化・ファッションの発信地であり、特産物の最大の消費地。
つか
そこで使われるものは、最先端のものばかりでした。
だいみょうちやうにん みぶん かんけい
大名町人の身分に関係なく語り合える場でもありました。
むねはる くいり ばしよ
宗春が出入していた場所は、
だいみょう くいり たいしんはたもと ころしやう
大名・公家・大身旗本・豪商のみが出入する楼閣。
けいざい ぶんか まな ば しじやう さいせんたん し ばしよ
経済・文化を学ぶ場であり、市場の最先端を知る場所でもありました。



もとよしわらたゆうかすがの
元吉原太夫春日野であった「おはる」は、宗春の側室になり
なごや むねはる さいご つか
名古屋で、宗春に最後まで仕えています。

ぎ ふじゅんけん うかいけんぶつ
岐阜巡検で鶺鴒見物をし、遊女を呼んで、

はで あそ
派手に遊んだような記録もありますが

じっさい まわ ものたち しごと いきぬ
実際は周りの者達に仕事の息抜きをさせて

じぶん べつ ぼしよ しょうにん はなし
自分は別の場所で商人たちと話をしていたようです。

むねはる はで いしよう
宗春の派手な衣装は、ファッションリーダーとしてのもの。

みずか
自らモデルをすることで、それが商品化され、市場が活況になります。

また、着替えを何度も行ったり、白い牛や漆黒の馬に乗ったり、

ながきせる もち ま くら いしよう じよせい ながじゅばん がいこくじん ぼうし とうじんぼう
長煙管を用い、真っ黒な衣装や、女性ものの長襦袢、外国人の帽子(唐人帽)、

はで きもの こんじき えぼし きぼつ いしよう くふう
派手な着物や金色の烏帽子など、奇抜な衣装を工夫し、

とき ぎやく いかんそくたいくげ せいしき いしよう せいそう
時には逆に衣冠束帯(公家の正式な衣装)の正装をしたりすることで、



庶民を驚かせ、よろこばせることができました。
宗春の政治の目的は庶民のよろこびでした。

宗春が規制の緩和を行ったことで、庶民に遊びが増え
それが芸事を育み、芸所名古屋が生まれました。
またそれに伴い、技術も盛んになっていき職人の街としても成長します。

食事は少なくてもいけませんし、食べ過ぎても身体に良くありません。
それと同じで何事も適度というのが大切だというのが宗春の考えです。
お金も遊びも同じで、適度にお金を使い、適度に遊び、締めるところは締める。
それが宗春の考えでした。

宗春治世の財政が破綻していたというのは後世に記された数字であり
宗春の当時にどうなっていたのかを示すものではありません。



● 京の公家も、市井の学者たちも宗春の方針を褒めたたえています。
宗春と同じような経済政策を藩主に申し出た学者も居たほどです。

● 蟄居謹慎後、二十二年後に、菩提寺への参拝を幕府から認められますが
その時も宗春を慕って町中の人が提灯を集めました。

● 将軍吉宗から、享保十七年に、
内々の使者が来て叱責を受けたとされますが、
しっかりと受け応えて逆に使者を諭したそうです。

現代において宗春の評判が良くないのは
政権にとって都合の良い将軍吉宗は、英雄でなければならなかったからです。
幕閣と正反対の政策を行い庶民の英雄であった宗春は
権力者から見れば、都合の悪い存在でした。
時の権力者たちによって歴史はねじ曲げられて評判が生まれたのです。



質問

むねはる はんしゅ こうはん けいざいせいさく しっぱい
宗春は、藩主の後半に、経済政策に失敗し、
はんし ゆうきよう て
藩士の遊興に手がつけられなくなったために
なご や じようか はなまち しゅくしよう
名古屋城下の花街を縮小し、
はんし ゆうきようきんし つうたつ だ
藩士に遊興禁止の通達を出したそうですが
むねはる ほうしん まちが
宗春の方針が間違っていたからではないでしょうか？

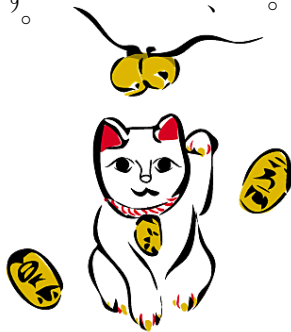
答え

むねはる ばくふ めいれい せいさく で まえ
宗春は、幕府の命令や政策が出る前に
おわりはんない もの こま
尾張藩内の者たちが困らないよう
せんで う じようほうつう はんしゅ
先手を打った情報通の藩主でした。
せいさく しっぱい ほうしんでんかん
政策の失敗で方針転換したわけではありません。



・享保二十(1735)年、むねはる 宗春が藩士にきりつ 規律を求めた数カ月後に、
ぼくふ 幕府は、大名と旗本に遊興の禁止の命令を出しました。
むねはる 宗春は、幕府の命令の先回りをして、藩内の者が困らないように、
きりつ 規律を藩士に回覧したのです。
けつ 決して遊興な生活のついで、きりつ 規律を厳しくしたわけではありません。

・げんぶんがん 元文(1736)年に、ゆうめい 有名な元文の改鑄が行なわれます。
かへい 貨幣の改鑄とは小判等の金や銀の含有量を調節して、
ぼくふ 幕府の身入りを良くし
しじょう 市場のお金を増やすことで
だつきやく デフレーション(不況)からの脱却を目的としたものです。
かへい 貨幣改鑄は極端なインフレーションになる可能性がありました。
じっさい 実際にこの改鑄のために



たんきかん ぜんこくてき はげ
短期間で全国的に激しいインフレーションとなりました。

むねはる

たいさく ひと

宗春は、このインフレーション対策の一つとして、

かいちゆう

ちよくぜん

かいげんちよくぜん

きようほう

ねん さきまわり

改鑄の直前の、改元直前の享保二十一年(1736)年に先回りをして

みつ

はなまち

ひと

とうこう

ぜんめつ

ふせ

三つあった花街を一つに統合することで全滅を防ごうとしたのです。

いっき

ゆる

へいさ

む

それも一気になくすのではなく、緩やかに閉鎖に向かわせました。

あくまでも

しょみん

ただい

めいわく

ほうしん

あくまでも庶民に多大な迷惑がかからないようにした方針です。

げんぶん

はんない

りようみん

かね

か

い

元文二年に、藩内の領民からお金を借り入れたことを批判されますが、

じつ

ぜんご

ぼくふ

だつきやく

しょみん

ちくせんきんしれい

だ

実はその前後に幕府は、デフレ脱却のために庶民の蓄銭禁止令を出しました。

宗春は、すでにインフレ傾向にあつた尾張藩内の貨幣を集めて

おわりはんない

かへい

あつ

インフレを抑えると同時に

しょみん

かね

かわ

まも

庶民のお金を、代わって守ったのです。



質問

きんしんしよぶん あそ
謹慎処分は遊びすぎたからではないのですか？

答え

しよみん せいかつ はん そんぞく だいいち はんない いちぶ けんりよく
庶民の生活より藩の存続が第一という藩内の一部の権力と、

さきまわ て う むねはる じゃま ばっかく むす
先回りの手を打つ宗春が邪魔という幕閣とが結びついて、

いっぽう とうじ ちやうてい うじ かつぱつか お
かなり強引な手段で、クーデターを起こします。

一方、当時の朝廷の動きが活発化しており、

その動きに將軍吉宗は、かなり敏感になっていました。

宗春の蟄居謹慎の引き金は、そのあたりにあるようです。



・(ことごとく)幕府の方針に反し、

しかも次から次へと幕府の行動に先駆けて手を打っていく宗春は、
幕府の権威を失墜させる最も危険な存在でした。

尾張藩が成功すれば成功するだけ、

幕府の方針が間違っていることを証明してしまうからです。

一方、尾張藩の中にも、庶民の生活より、

尾張藩そのものが大切な藩重臣が居ました。

幕府の方針に反し、幕府を刺激しすぎて、

藩がお取潰しになることを最も恐れていたのです。

その代表が幕閣に実の弟(石河政朝)がいた附家老竹腰正武です。



尾張藩内と幕閣の二つの勢力が結びつき、

宗春が参勤交代で尾張藩内に居ない間にクーデターが起きてしまいました。

藩の重臣たちは、藩内の庶民に重税をかけ庶民の生活を圧迫しました。

幕閣はそれを全部宗春の責任とします。

当時の朝廷の中心は、桜町天皇と関白一条兼香。

ふたりとも反幕府の象徴であった靈元法皇の影響が大きく

その他の公家たちも

靈元法皇から歌道を継いだ者たちが中心になっていました。

朝廷は、朝廷の権威復権のための行事を次から次へと幕府に提案し、

それを幕府も認めざるを得ませんでした。

貨幣改鑄等で、全国的に混乱しており、朝廷を敵にできなかつたからです。

將軍吉宗は、朝廷と、藩祖義直の時代から尊王であった尾張藩を危険視し、

宗春の謹慎を決意したものと思われまます。

また、吉宗は、宗春を謹慎にした直後に、朝廷にも楔を打ち込みまます。

関白一条兼香の娘を、

吉宗の出身である紀伊藩藩主の徳川宗将の後妻とし、

更には水戸家、一橋家、清水家にも兼香の娘を嫁がせています。

尾張と田安家以外の御三家御三卿に、同じ公家の娘を嫁がせるのは



いれいちゅう いれい できごと
異例中の異例の出来事。

むねはる ちつきよきんしんしよぶん ごさんけはじ とくがわごいちもん へいもん
しかも宗春の蟄居謹慎処分は、御三家始め徳川御一門が閉門し

えどじよう もん はんぶんし しようぐんよしむね ちつきよきんしん だ ひ
江戸城さえも門を半分閉めたほどの凶事の出来事でありながら

むねはる ちつきよきんしん だ ひ
將軍吉宗は、宗春を蟄居謹慎にしたその日のうちに、

いわ じごと ししや さいどよ だ ちようていたいさく
祝い事のための使者を再度呼び出して朝廷対策をしています。

よしむね
それだけ吉宗が、

おわりはん ちようてい むす きけんし
尾張藩と朝廷との結びつきを危険視していたのです。

● ばっかく むねはる たい ぞうお
幕閣の宗春に対する憎悪と、

さくらまちてんのう いちじようかねか(かねよし) ちゆうしん
桜町天皇と一条兼香 を中心とする朝廷問題が絡み、

さら ばっかく おそ おわりはん ちゆうていもんたい から はんない せいりよく おもわく いっち
更に幕閣を恐れ尾張藩そのものを大切にす藩内の勢力の思惑が一致し、

むねはる ちつきよきんしん
宗春は蟄居謹慎させられました。



質問

ちつきよきんしんご むねはる
蟄居謹慎後の宗春は、どんな生活をしたのですか？

答え

なごやじょうさんのまる やしき
名古屋城三之丸の屋敷に十五年、御下屋敷に十年
いんきよせいかつ たの
隠居生活を楽しんでいたようです。



えどいちがやおもてやしき こうじまちなかやしき いどう
江戸市ヶ谷表屋敷から麹町中屋敷に移動し、
はんとしご なかせんどう なごや もど
半年後に中山道で名古屋に戻ります。
さんのまる やしきない ゆうへい
三之丸の屋敷内に幽閉されたという名目で、隠居生活を始めました。
がいしゆつ けつ
外出は決してできなかつたのですが、芸術ごとを楽しんでいたようです。
こうけい はちだいはんしゆむねかっ か せく ゆず う
後継の八代藩主宗勝から掛け軸を譲り受けるなど大切にされていきました。

ちつきよきんしん
蟄居謹慎して十五年後に、御下屋敷へ転居し、隠居生活を続けます。
おしたやしき わねはる そふ はんしゆみつとも いんきよせいかつ つづ
この御下屋敷は、宗春の祖父二代藩主光友の隠居所で六万坪の広さがあり

とうかいじょう　さまさま　めいしょ　ち　ていえん
東海道の様々な名所を散りばめた庭園があり、
やしき　なか　まち　やしき
屋敷の中に街があるような屋敷でした。
や　もの　つく　しよが　か
ここで焼き物を作ったり、書画を描いたり、
げいじゆつ　たの
芸術ぐことを楽しんでいたようです。

さらはこの御下屋敷内には
おしたやしきない
むねはる　しょうぐんよしむね　はいりよう　にんじん　さいばい　にんじんばたけ　おくすりえん
宗春が將軍吉宗から拝領した人参を栽培する人参畑と御薬園があり、
たいせつ
それを大切にされたそうです。

にんじんばたけ　おくすりえん　なごや　いがくはってん　やくだ
その人参畑と御薬園は、名古屋の医学発展に役立ちました。

むねはる　がいしゆつきよか
宗春の外出許可はなかなかおりず、
ちつききんしんご　はんしゆむねかつ　しんせい　ばくふ　きよか　で
蟄居謹慎後二十二年して藩主宗勝の申請で幕府より許可が出て、
ぼだいじ　けんちゆうじ　じようじゆう
菩提寺の建中寺(浄土宗)に出かけます。

ご　そふみつとも　そうけん　やごとさんこうしょうじ　しんごんしゅうじんぼうじは　で
その後、祖父光友が創建した八事山興正寺(真言宗神鳳寺派)に出かけ、



むねはるみずか じゅうしよく じんめい たいにんみょうりゅうおしょう たいだん こうしょうじない さんさく
宗春自らが住職に任命した諦忍妙龍和尚と対談し、興正寺内を散策。

その翌年に亡くなります。

最後は、真言と念仏を日課にされていたようです。

阿弥陀如来のシンボルの文字キリクの護符印があるほど

宗春は仏教を信仰していました。

● お墓に金網が張られていたという噂が流布していますが、
公式記録にはありません。

● 亡くなった後も謹慎解除の許可は下りず、

死後七十五年でようやく解除され
尾張藩主の極官である従二位権大納言が追贈されました。



質問 質問
宗春の影響は、彼の謹慎後どうなったのでしようか？

答え

宗春の蟄居した六年後に、將軍吉宗は隠居します。
その後、子の家重時代から政策が変更され
孫の家治時代は、吉宗の政策ではなく、宗春の政策を用い
重商政策を推進し化政文化の基礎を築きました。



宗春の政策は、吉宗が將軍時代は幕閣によつて否定されました。宗春蟄居の六年後に吉宗が隠居して大御所となり、九代將軍家重が就任します。そこで、吉宗時代の幕閣の最高権力者であった老中松平乗邑は突如罷免されます。質素儉約令で庶民が圧迫され、各地で暴動が起き、宮中にまでそれが飛び火し

せきにんと
てしまった責任を取らされたのです。家重は、吉宗のように幕閣中心の政策で
はななく、宗春のような側近政治を始めます。不思議なことに大御所となった吉宗
はそれを否定することなく見守ります。



いえしげ
・家重の子の十代将軍家治も側近政治でした。その代表が田沼意次。田沼は
じゅうしやうせいざく
重商政策をとります。この時代になり、宗春は尾張家菩提寺の建中寺参拝を
きよか
許可され、尾張家祈禱寺の八事山興正寺に参拝できるようになりました。その
たぬま じゅうしやうせいざく
田沼の重商政策こそ、宗春が尾張藩で行った商人たちとの連携による経済
せいざく
政策でした。ここに吉宗が苦心した米経済から、貨幣経済へと大きく転換されま
す。

えどじだい
・江戸時代の三大改革は、吉宗による享保の改革・松平定信による寛政の改革・
みずのただくに
水野忠邦による天保の改革と言われています。これらの改革は、幕府の財政の
かいかく
改革であり、貨幣経済を否定した米経済への逆行でした。そのために質素儉約を

極端なまでに庶民にも押し付けたものでした。幕府の権威を保つために、吉宗という英雄を美化神聖化し、それを踏襲したものが江戸の三大改革です。それらは決して日本国のための改革ではなく、あくまでも幕閣にとつて都合の良い改革でした。そのために、宗春や田沼のような商人と共に貨幣経済を見据えた政策は、吉宗を否定することになり、幕閣や権力者にとつて都合が悪く、宗春や田沼は無理やり悪役にされてしまったのです。

・ 吉宗の最初の十年はたしかに大いに成果を見せましたが、後半は幕閣任せ。結果的に、それが宗春の叛乱を招き、吉宗は隠居した後は宗春のような政策を暗黙に認めたようです。

・ 宗春が今生きているならば、財政優先ではなく、規制緩和による民間主導でありながら、庶民のことを第一に考える政策を取っていることでしょう。

むねはるこう おも けいれき
宗春公の主な経歴
 ねんれい かぞ どし
 年齢は数え年

げんろく

元禄九年十月二十八日 (新暦1696年11月22日) 生まれ

四歳 父の綱誠公(父)が薨去

五歳 祖父光友(祖父)公が薨去する

十三歳 兄の吉通より通春という名前を授けられる

十八歳 信濃路を通つて江戸に移り住む。

兄吉通薨去 その子五郎太逝去 兄継友が六代藩主に

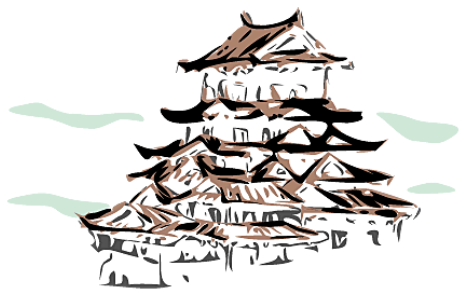
元服し、求馬通春と名乗る

二十一歳 譜代衆に、従五位下主計頭叙任。松平主計頭通春となる。

二十四歳 従四位下 大名格を得る

二十九歳 長女誕生 (以下、二男六女を得る)

三十五歳 尾張家御連枝となり陸奥梁川三万石の大名に



江戸に常在 国持大名扱い

三十五歳 兄継友が薨去し、尾張七代藩主に

三十六歳 従三位参議・左近衛権中将となる

主著『温知政要』執筆 名古屋へ戻る

名古屋入府の際、漆黒の馬に、金縁黒尽くめ衣装で庶民を驚かせ喜ばせる

全国的に儉約緊縮体制に反し、規制緩和積極経済政策を打ち出す

名古屋の人口は増え、大いに賑わう

三十七歳 京での『温知政要』出版が所司代より不許可となる

江戸に参勤交代で移った後に將軍家より三条の詰問を受ける？

四十歳 藩士に遊興徘徊と博打を禁じる。直後、幕府も大名旗本に同じ令を出す

嫡子万五郎(三)が逝去

四十一歳 一部緊縮体制に移る。幕府の貨幣改鑄等に対する対策？

四十二歳 次男龍千代(二)逝去

四十三歳 江戸詰めえどづの最中さいちゆうに、老臣ろうしんにより尾張藩内おわりはんないでクーデター

四十四歳 藩内はんないの混乱こんらんを理由りゆうに幕府ばくふより蟄居ちつきよきんしん謹慎めいを命めいじられる

名古屋なご城三じょうさんの丸まるに幽閉ゆうへい

五十九歳 名古屋なご御下屋敷おしたやしきへ転居てんきよ

六十六歳 閉門へいもんが一部解いちぶとかれ菩提ぼだい所建しよけん中寺ちゆうじに

六十八歳 八事山やごとさん興正寺こうしやうじに参拜さんぱい

六十九歳 御下屋敷おしたやしきで薨去こうきよ（明和元年十月八日めいわ（新曆しんれき1764年11月1日））

戒名 章善院殿厚譽孚式源遑大居士

諡号 遑公



とくがわむねはる

せんけん

めい

けいざいつう

じょうほうつう

徳川宗春

先見の明があり、

経済通で、情報通。

しやれず

ぶんか

あい

お洒落好きで文化を愛し、

しよみん

りかい

いのち

たいせつ

にんげんせい

かいほう

うた

庶民を理解して、命を大切にし、人間性の解放を謳い、

おお

あい

ひろ

こころ

大きな愛と広い心で、

あか

いふうどうどう

だいまよう

ほか

みあ

明るく、威風堂々としていた大名は他には見当たりません。

かれ

おも

じだい

ひつよう

彼の想いこそ、今の時代に必要なもの。

こころ

かたがた

とくがわむねはる

し

心ある方々に、徳川宗春のことを知っていたら

かれ

おも

じっせん

さいわ

彼の想いを実践していただければ幸いです。

平成二十二年十月二十八日

宗春ロマン隊

喜多川遊歩